

会 報

“ま な び”

NO. 20

富山県生涯学習インストラクターの会
平成27年7月発行

平成27年度を迎えて

会長 種谷祐治

みなさま、その後お変わりございませんか。いよいよ7月に入り、夏本番を迎えました。みなさまには、日頃それぞれの地域で、得意分野を生かしながら、ご活躍されています事、大変喜ばしく、素晴らしいことと存じます。

去る4月総会は無事に終了し、新しい計画案も了承いただきました。本年度も昨年度と同じコンセプトで、計画を推進したいと考えております。どうぞ、本年度もよろしくご支援とご協力お願い申し上げます。最近、異常気象が続いております。健康面に一層ご留意されご活躍されますようお祈りしております。

昨年の事業内容を報告いたします。

◆平成26年度定期総会を開催（平成26年4月）

平成26年4月13日(日) 午後2時から富山駅前CiCビル3階に於いて開催いたしました。平成25年度事業報告と収支決算報告、並びに平成26年度事業計画と収支予算が承認されました。

◆樂集会の開催（平成26年6月）

「語りの世界あれこれ」

講師：奥井悦子さん

日時：平成26年6月15日（日）13時30分から

場所：富山駅前CICビル3F 和室

講師の奥井さん（当会員）から富山と東北の民話のいくつかを紹介された。民話を語る時、実際にその場に足を運び、その土地の人々と話をするなど、色々と調査して語っている。継続は力なりで、「富山語りの会」の会員もうまくなってきたと思う。子供たちは喜んで聞いてくれ、大人たちも、そのような話があったのかと驚かれる。聞いている人からもパワーをいただきボランティアの良さを実感できる。といったコメントをいただいた。



講師：奥井悦子さん

◆公開講座の開催（平成26年8月）

「夏休み特集 楽しいおもちゃづくり」

主催：富山県生涯学習インストラクターの会

支援：富山県児童クラブ連合会

後援：富山県教育委員会、北日本新聞社

日時：平成26年8月10日（日）13時30分から

場所：富山駅前CICビル3F 学習室1~3

この公開講座「楽しいおもちゃづくり」は3年目を迎えました。台風11号が最も近づく時間帯でしたが、富山市では風も雨も激しさはなく、26人の参加を得ました。はじめに児童クラブ連合会事務局長の清水保夫さんから、おもちゃづくりの楽しさについてお話を聞き、さっそく、児童クラブ連合会の清水保夫さん、袴谷修さん、坂林彰（当会員）さんの指導の下でおもちゃづくりに取り組みました。ご両親やおばあちゃんの手助けを得ながら、「ミニクルンコ」、「紙コップ・トランペット」と「ストロースライダー」を作りました。「ミニクルンコ」は不思議にまわることに驚き、「紙コップ・トランペット」はカッターナイフを使い、少し危険を感じながらも作り上げることの楽しさを味わい、「ストロースライダー」では作った後の飛ばし合いを楽しみました。自分の作品を大事に持って帰る姿を見ると来年も期待できると感じられました。



紙コップ・トランペット



ストロースライダー飛ばし

◆樂集会の開催（平成26年10月）

「私の趣味について」

講師：高邑恵委子さん

日時：平成26年10月19日（日）13時30分から

場所：富山駅前 CIC ビル3F 学習室5

講師の高邑恵委子さん（当会員）から「私の趣味について」と題して剣詩舞道（けんしぶどう）のお話を聞かせていただきました。剣詩舞道は詩吟に合わせて扇や刀を持って舞うもので、詩吟演舞や歌謡演舞などがあるそうです。高邑さんは渋川流の師範で、多くのお弟子さんをお持ちですが、お弟子さんへの対応方針や詩舞ならではの目線や間の重要性をお話いただき、お話しそのものにも気迫が感じられました。参加者は6名で少なかったのですが、その分、質問や討論などが活発になり、有意義な時間を過ごさせていただきました。



講師：熱弁中の高邑さん

◆新年会の開催（平成27年1月）

日時：平成27年1月25日（日）13時30分から

場所：富山駅前 CIC ビル3F 和室

全員にこの一年の出来事や様々なお考えお話をいただきながら、如何にして本会を活性させるかについて話し合った。活性化のためには、人数、若手、イベントの多さなどの指摘があった。昨年度の反省として第一にイベントの少なさがあった。また、参加型のイベントが有効であることが出され、おもちゃづくりや絵手紙などの良さが分かる。さらに会のメンバー自身も貢献したいと思いながらも参加や中心になれない事情があって活性されないとの意見もあった。

話の中で生涯学習のあり方も話題となり、我々自身が生涯にわたって勉強するのか、あるいは子供からお年寄りまで生涯にわたって勉強するような企画をしていくのかの定義も判らなくなった。

新年早々に難しい話題となったが、多くの意見を得ることができ、次回の役員会で来年度の予定や今後の方向への指針になると思われる。